令 和 ８ 年

第４回（１２月）波佐見町議会定例会

町政に対する一般質問

波 佐 見 町 議 会

通告順位	１	通　告　者	６番　　岡　村　達　馬　　議員

質問事項及び要旨

１．農業の現状と将来の展望について

日本の農業従事者はこの 20 年間でほぼ半減しており、今年の米価も昨年度より 42%減となるなど、農家の収入は不安定な状況にある。こうした収入減は、近年の天候不順や燃料・肥料等の価格高騰と相まって農業経営への大きな負担となり、離農や担い手不足に拍車をかけている。

そこで、次のことを問う。

（１）2024 年の農業従事者は約 111 万人、平均年齢は 69.2 歳との報告がなされている。本町の農業従事者の５年間の数値はどのように推移しているのか。

（２）天候不順や異常気象による作物の収穫量の減少は、若い世代の就農に大きな影響を与えると思うが対策をどうするか。

（３）本町では小規模経営や中山間地域の農地が多く、大型機械化やスマート農業技術の導入が厳しいと思われる。農業の継続や収益向上のため、今後どのような農業形態を模索していく計画か。

（４）全国の農業経営体のうち個人経営体が 95.4%を占め、その多くが高齢者を中心とした家族経営である。本町においても地域での農地の集積・集約化が進んでないと思えるがどうか。

２．多発する自治体などへのサイバー攻撃ついて

企業や自治体ウェブサイトへのサイバー攻撃は、10 月だけで約４億 7,500 万件確認されている。県内でも自治体等が委託する外部のメール配信サービスで不正アクセスが相次ぎ、メールアドレス情報が流出したとの報道もあっている。

そこで、次のことを問う。

（１）不正アクセスにより、防災情報の配信が停止するなど、災害時の情報伝達手段にも影響が出ている。本町の管理に問題はないか。

（２）本町が委託する事業者へのセキュリティ状況の精査や、緊急時の連絡体制はどうなっているのか。

質問の相手	町　長

通告順位	２	通　告　者	１０番　　田　添　有　喜　　議　員

質問事項及び要旨

教育振興について

永田教育長の就任にあたり、本町教育が抱える課題の解決に対して、町民からは大きな期待が寄せられている。本町の教育課題をどのように捉え、その解決に向けてどのように取り組んでいくのか。

また、本町の教育振興に関わる支援体制は、他市町に例を見ないほど手厚い取り組みが行われている。年度途中の就任ではあるが、「教育の町！波佐見」の実現に向けて、具体的にどのように取り組んでいくのか。

そこで、次のことを問う。

（１）本町の教育課題について、どのようなものがあると考えているのか。

（２）教育委員会が関わる事業や行事は多岐にわたり幅広い。そこで、今後新たに取り組む事業（行事）はあるのか。また、見直しが必要な事業（行事）等はあるのか。

質問の相手	町　長・教育長

通告順位	３	通　告　者	４番　　横　山　聖　代　　議　員

質問事項及び要旨

新教育長就任に伴う教育方針について

現在、地方自治体を取り巻く教育環境は大きく変化しており、本町においても、少子化の進行や多様化する教育ニーズへの対応、教育分野におけるデジタルトランスフォーメーション（DX）の推進など、取り組むべき課題が山積している。

そこで、新教育長がどのような理念のもとで本町の教育の舵取りを行っていくのか、次のことを問う。

（１）教育長としての抱負と教育方針は。

（２）本町の教育課題に対する認識と対応について。

①児童生徒数の減少への対応

②ふるさと教育・キャリア教育の推進

③不登校・特別支援教育への対応

④ＩＣＴ教育のさらなる深化

（３）教職員の働き方改革と支援体制について、どのように取り組むのか。

質問の相手	教育長

通告順位	４	通　告　者	９番　　福　田　勝　也　　議　員

質問事項及び要旨

窯業の支援策について

基幹産業である窯業は、４００年以上の歴史の中で本町とともに成長・発展を遂げ、「やきものの町波佐見」として、全国的に注目されている。
また、人材雇用や「陶器まつり」を中心とした観光事業、さらには町税や「ふるさと納税」による財源確保など、本町の行政運営に大きく寄与している。

しかし一方で、陶土の原材料費や燃料費、人件費の高騰に加え、生地業をはじめとする後継者・担い手不足など、取り巻く課題は山積している。

そこで、次のことを問う。

（１）廃石膏のリサイクル推進や廃棄処分の対応について、どのような対策を講じているか。

（２）窯業に対する支援事業の具体的な内容と支援額はどのようになっているか。

（３）生地製造事業者数の推移と年齢構成はどのようになっているか。

（４）生地製造事業者の職場環境改善・整備および担い手の確保について、今後どのように考えるか。

質問の相手	町　長・教育長

通告順位	５	通　告　者	３番　　澤　田　昭　則　　議　員

質問事項及び要旨

物価高騰対策と町内経済の活性化に向けた今後の支援策について

物価や光熱費の高止まりにより、町民の暮らしや事業者の経営は依然として厳しい状況にある。令和８年度のプレミアム付き商品券も 11 月 30 日で終了となったが、今後の消費の冷え込みを防ぐ仕組みづくりが急務である。

そこで、生活支援と地域商業の活性化を両立させるため、次のことを問う。

（１）これまでの商品券事業の振り返りとして、令和８年度のプレミアム付き商品券と高校生支援商品券の経済効果と課題をどう評価しているか。

（２）商品券事業終了後の新たな消費喚起策として、従来の商品券事業に比べて事務コストを抑つつ継続的な地域経済の循環が期待できる、キャッシュレス決済のポイント還元やデジタル地域通貨の導入を検討する考えはないか。

（３）町内事業者の販路拡大・集客支援の充実に向け、現行の「経営強化支援補助金」の拡充や、商工会等と連携して実施するイベントへの支援を強化する考えはないか。

（４）子育て・高齢者世帯への新たな生活支援として、生活必需品の購入支援や省エネ家電への買い替え補助など、家計の負担軽減と町内店舗の利用促進を結びつける施策の計画はないか。

（５）観光消費やふるさと納税と連動した経済循環に向け、来訪者の消費を町内の飲食店や小売店へ広く波及させる仕組みづくりや、ふるさと納税を活用した地域経済の活性化について、今後どのように考えているか。

質問の相手	町　長・教育長

通告順位	６	通　告　者	１１番　　北　村　清　美　　議　員

質問事項及び要旨

１．波佐見町の伝統文化と景観の継承について

本町の誇る伝統芸能である県指定無形民俗文化財の皿山人形浄瑠璃と、町指定無形民俗文化財の四浮立は、いずれも長い歴史と高い文化価値を有してるが、現在は担い手の高齢化や後継者不足により存続の危機に直面している。これらかけがえのない伝統文化を次世代に確実に継承していくため、町としてより具体的な支援体制や振興策をどのように講じていくか。また、本年２月に国の重要文化的景観に選定された「波佐見中尾皿山と鬼木棚田の文化的景観」をどのように考えているか。その所見を問う。

２．高齢者の支え合いと認知症の予防策について

団塊の世代がすべて７５歳以上の後期高齢者となり、現役世代の減少が加速する中、医療や介護の公的サービスだけでなく、地域住民同士の「互助・共助・支え合い」の重要性がますます高まっている。また、認知症施策においては、発症を遅らせる「予防」の取組と並行して、認知症の人や家族が地域の中で孤立せず、生きがいを持って暮らせる環境づくりが不可欠である。

本町では「地域包括支援センター」を中心に取り組まれているが、今後のさらなる高齢化を見据え、現在の取組の成果と課題、そして次なる一手について町の見解を問う。

３．青少年の国際交流の推進について

本町では「第３期波佐見町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の中で、国際化に対応する人材の育成や触れ合う機会の創出を掲げられている。未来を担う青少年同士が顔の見える関係で交流し、相互理解を深める「草の根の交流」の意義は大きいと考える。本町におけるこれまでの取組と現状の課題をどのように認識されているのか、また、今後の青少年派遣や受け入れ事業への見解を問う。

質問の相手	町　長・教育長

通告順位	７	通　告　者	１番　　前　田　博　司　　議　員

質問事項及び要旨

人口減少時代における波佐見町の将来ビジョンと持続可能な町づくりについて

本町の将来を考える上で、人口減少と少子高齢化への対応は、避けて通れない重要な課題である。本町の人口は、1990 年頃をピークに減少しており、今後も人口減少と少子高齢化が進むと予測されている。人口が減少するということは、単に町民の数が減るということではなく、地域産業の担い手不足や若者の流出、出生数の減少、地域コミュニティの弱体化、さらには公共交通、医療、福祉、教育など、町民の日常生活を支えるサービスの維持にも影響を及ぼす問題でもある。特に、若い世代が進学や就職を機に町外へ転出し、その後、町に戻ってこないという状況が続けば、地域の将来を担う人材が失われ、人口減少にさらに拍車がかかることになる。

一方、本町には、全国的に知名度の高い波佐見焼をはじめ、農業や豊かな自然など、他の地域にない大きな財産がある。これら地域資源を生かし、若者が働き、子供を育て、高齢者が安心して暮らせる町をつくっていくことが重要である。そこで、これからの波佐見町をどのような町にしていくかのという将来ビジョンの観点から、以下について問う。

（１）現在の人口減少および少子高齢化の要因をどのように分析し、自然減・社会減それぞれにどのような対策を重点的に進めるのか。

（２）出生数の推移と現在の子育て支援策の効果をどう評価しているか。また、若い世代が安心して結婚・出産・子育てできるよう、経済的支援や住宅支援を充実させる考えはないか。

（３）若者の就職・転出状況や町内企業の人材確保をどう把握しているか。また、U ターン支援、奨学金返還支援、起業支援及び町内企業への就職促進を進める考えはないか。

（４）窯業関係者の後継者不足や人材確保の課題をどう把握しているか。また、今後の対策についてはどのような方針か。

（５）波佐見焼と観光、飲食、宿泊、農業等を連携させ、町内で経済が循環する仕組はできているか。

（６）移住希望者への情報発信や相談体制、空き家・住宅の確保をどのように進めているか。

（７）高齢者の通院・買い物等の移動手段の確保や日常生活の支援や地域コミュニティを維持する方策はあるか。

質問の相手	町　長・教育長

通告順位	８	通　告　者	２番　　脇　坂　正　孝　　議　員

質問事項及び要旨

１．町内公共施設のＬＥＤ照明への更新について

蛍光ランプは2027年をもって製造・輸出入が禁止となり、以後は蛍光管の調達が困難になる恐れがある。

そこで、次のことを問う。

（１）町有施設のＬＥＤ照明化について、その進捗状況はどうか。

（２）自治会公民館などのＬＥＤ照明化について、その進捗状況はどうか。また、更新促進のため、助成を拡充する考えはないか。

２．町政に対する提言募集について

町政への関心をさらに高め、町づくりに斬新な施策やアイディアを募集し採用することで、町政が一段と活性化・発展するよう、次のような条件で提言を募集してはどうか。

①募集に当たっては、テーマは自由とし、期間を定める。

②応募対象者は、中学生以上とする。

③採用された提言は、表彰し広報する。

３．特定健診等受診率の向上対策について

令和７年度の特定健診受診率は49.7％と報告された（広報波佐見11月号)。目標は60％と定めてあるが、達成した地区は６地区と少ない。

そこで、次のことを問う。

（１）特定健診の全対象者数及び全受診者数は何人か。

（２）未受診の主な理由は何か。

（３）報奨金以外の受診率向上対策はどうか。

（４）肺がん、大腸がん、胃がん検診の受診率はどうか。

質問の相手	町　長・教育長

通告順位	９	通　告　者	５番　　岡　村　真由美　　議　員

質問事項及び要旨

１．教育長の所信について

（１）「あいさつ運動」の評価と今後の実施をどのように計画しているか。

（２）図書館改修工事の進捗状況はどうか。

（３）学力向上対策をどのように進めていく考えか。

（４）奨学金の貸付け事業は、現状のまま継続していく考えか。

（５）臨時休校措置に至る流れや授業日の確保に関して、留意している点は

（６）「絆の日」は継続して実施する考えか。

（７）波佐見高校の存続に向けて、どのように取り組んでいくべきと考えているか。

２．美しく実り豊かな農村環境の保全策について

農作物への被害だけでなく健康への被害も心配される外来生物は、どのような経緯で繁殖しているのか。農村環境の保全策を考え、広く町民に周知する重要性が問われている。

そこで、次のことを問う。

（１）ジャンボタニシによる被害は、どのような経緯で広がったのか。

（２）新たな外来生物の侵入をどのようにして防ぐ考えか。

（３）国の特別天然記念物コウノトリの、本町への飛来を承知しているか。

質問の相手	町　長・教育長

通告順位	１０	通　告　者	７番　　三　石　　孝　　議　員

質問事項及び要旨

１．環境美化事業について

町が管理を行う公園や町道・農林道に関して、年間を通して環境美化作業が実施されている。

従来、自治会が奉仕作業で行ってた内容も、現在は自治会からの要望として出されることも少なくない。

このような点にも高齢化社会が進んでいることを実感する。

そこで、次のことを問う。

（１）環境美化作業の内容と課題はどうか。

（２）環境美化作業員制度における課題はどうか。

２．町道・県道の管理について

本町では、魅力の発信やイベント観光に力を注いでいる。そのアクセスとなるのが東西南北に走る県道や町道であり、来町者が最初に目にする、いわゆる「ウエルカム道路」である。

そこで、次のことを問う。

（１）県道における除草作業受託案件の進捗状況はどうか。

（２）町道のストック総点検の現状はどうか。

質問の相手	町　長・教育長